OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ソグド語仏典解説補遺
Author(s)	吉田, 豊
Citation	内陸アジア言語の研究. 1993, 8, p. 135-138
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/20423
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ソグド語仏典解説補遺

吉田　豊

筆者は本誌のVII号に，「ソグド語仏典解説」と題する論文を発表した．そこでも書いたように，すべてのソグド語仏典が発表されないかぎり，この種の解説は暫定的なものでしかありえない．特に，ベルリンのドイツ・トルファン探検隊将来品は，未だにその多くが未発表のままであり，解明が進めば先の「解説」は大幅に改訂されなければならないであろう．幸い筆者は1992年秋，三菱財団人文科学研究助成金の支給を受け，ベルリンに3週間滞在し，インド美術館，国立図書館（旧西ベルリン），及びトルファン研究所（旧東ベルリン科学アカデミー）で上記の資料の調査を行った．本稿では，主にこの調査で得られたソグド語仏典に関する新知見を，上記の論文の補遺として提出する．今後も機会を見つけてこの種の補遺を発表していきたい．

なおインド美術館のヤルディズ館長及びザンダー博士，国立図書館のファイステル博士，さらにトルファン研究所のズンダーマン博士には，貴重な資料の閲覧に格別の配慮を賜わった．記して謝意を表したい．

98頁：下で述べるようにAranemi jātakaのソグド語版が発見された．この説話は，西域北道で極めてポピュラーであったらしく，トカラ語A・B，ウイグル語，トゥムシュク語訳が知られている（cf. J. Hamilton, *Manuscrits ouigours du IX^{e}–X^{e} siècle de Touen–houang*, Tome I, Paris, 1986, p. 2）．これも北道のソグド人仏教徒と，クチャを中心とする小乗仏教との関連を示唆するものである．

107頁：Daśakarmapatha–avadānamālā：最近W. Sundermannは，ベルリンのコレクションの中に，Henningが報告した写本に接合する断片を発見した．接合された文書は，表裏各35行を有するほぼ完全な貝葉である．興味深いのは，その裏面の一部（13–20行）にぴったり対応する箇所が，ウイグル語訳に見いだされることである（cf. F. W. K. Müller, "Uigurica III," *APAW*, 1920, p. 31, T. II,

S. 89 i, Rückseite)．これは，ソグド語訳とウイグル語訳，及び各々の原典との関係を明らかにするための重要な手がかりである．今後ウイグル語学者と共同して研究を進める必要がある．なお，この説話に対応する漢訳は，『菩薩本行経』(『大正』第3巻, 112–113頁) と『賢愚経』(『大正』第4巻, 349–350頁) に見いだされる。

107頁：ジャータカ及びアヴァダーナ：ベルリンのインド美術館が所蔵する絵入りのソグド語仏典のなかに，同一写本の離れと思われる一連の貝葉の断片がある．それらには現在，III4933, 4948, 4949a, b, 4950, 4984, 6998 の編号が与えられている．どの貝葉も，片面が絵画であり，もう一方の面がテキストである．一葉に8行ずつ書かれている．どれも断片で，写本の本来の大きさは不明であるが，ソグド文字を横書きと見て，その高さは10cmほどであったと考えられる．しかし幅がどれほどであったかは，それをもとに推定するしかない．このうち III4984 のテキスト面の端には，この仏典のタイトルが書かれている．それは 'rn'ym xwt'w X[ptr]「アラネミ王十［ 葉］」と読むことができる．上で述べたように，アラネミ王が主人公のこのジャータカは西域北道で非常にポピュラーであったが，漢訳は存在しないし，サンスクリットのものも現在までのところ見つかっておらず，これらの断片の比定もできていない．

'rn'ym xwt'w は，他に III4950, 6998 にも見いだされるので，それらも同じジャータカを含んでいるのであろう．また，インド美術館の絵入りの写本を研究しておられる J. Ebert 博士によれば，III4949a は III4950 と接合するらしい．ただし，上でリストした断片がすべてこの説話を含むものかどうかは明らかではない．特に，III4949b には，[1](LPw δyδm) βrt「千の王冠」と読める箇所がある．これは，P. Zieme が言及する，仏陀の法の一偈を聞くために，千の王冠を持つ頭を切り落とした Maṇicūḍa 王に関する説話の一部であった可能性がある (cf. Zieme, *Buddhistische Stabreimdichtungen der Uiguren*, BTT 13, Berlin, 1985, p. 56)．もしこの推定が正しいとすれば，この貝葉本はアラネミ王の話を含む，いくつかの仏教説話を集めたものであったことになる．

108頁 『僧伽吒経』(iii)：Sims–Williams が言及する断片 T iii Š には，現在 So 20165 の編号が与えられている．この文書の内容に対応する部分は、漢訳では『大正』第13巻964頁c (No. 423) 及び983頁c (No. 424) に見いだされる．二種類の漢訳では、前者のほうがソグド文に近い．

108頁 『大般涅槃経』：京都大学文学部が保管するトルファン出土のソグド語仏典の断片が，『大般涅槃経』の翻訳であることが最近判明した．これは，同じ場所に保管されているウイグル語文書から判断すると（『羽田博士史学論文集下巻』，京都，1958年，325頁），王樹枏がトルファンで入手したもので，羽田亨の時代に同学部東洋史研究室の所蔵に帰したものらしい．漢訳で対応する部分は，『大正』第12巻456頁c (No. 374) である．訳語などから判断して，漢訳からの重訳であることは歴然としている．しかも，写本の体裁から考えて，既に知られている文書とは明らかに別の写本である．従って，ソグド語の『大般涅槃経』には，少なくとも３種類の写本が存在していたことになる．

110頁 『薬師琉璃光如来本願功徳経』注29：当該の断片は最近発表された (cf. K. Kudara and Sundermann, W., *AoF* 19, 1992, pp. 350–358)．互いに接合する２断片 So10000(1) [= T] と So10650(30) [= TID] がそれで，『大正』第14巻406頁 b29–c4 (No. 450) に対応する．なお，テキストには若干訂正を要する箇所がある：l. 5 st']h → (100)；l. 6 'spyš'nt → 'sp'yš'nt；l. 9 'rwr'n → 'rwrw'n. さらに，８行目の pcγrβ'nt と９行目の xwt'w の γ と x の上には，補助記号として小さな点が付けられている．γ と x の両方に点が付けられていることから，有声と無声を区別するためのものであったとは考えられず，何を意図したものであったかは不明である．また，著者達が存在するとする10行目の myδ''γty の δ の下の点は，単に文書の汚れである．

113頁『酒を誡める経』：ctβ'r'tsr'n という人名に付いては N. Sims–Williams, *Sogdian and the other Iranian inscriptions of the Upper Indus*, II, London, 1992, p. 67 参照。

115頁：ここで言及された絵入りの仏典はインド美術館では，III4932 という

編号が与えられている．この断片は，その体裁から別の小断片 III4941, 4942 と同一文書からの離れであることが分かる．また，III4931 はこれらとは別の絵入りの仏典である．従って，絵入りのソグド仏典は，上記のアラネミ・ジャータカを含め３種類が知られていることになる．

前号に対する正誤表

98頁 上から６行：Daśa karma patha-avadāna māla → Daśakarmapatha-avadānamālā

107頁 11.：Daśakarmapatha–avadānamāla → Daśakarmapatha–avadānamālā

111頁 上から１行：Śukha → Śuka

117頁(追加)：D. N. MacKenzie, *The 'sūtra of the causes and effects of actions' in Sogdian*, London, 1970.

D. N. MacKenzie, *The Buddhist Sogdian texts of the British library*, Acta Iranica 10, Tehran–Liège, 1976.

119頁 後記：西域文化資料 no. 2146 は異なる写本に属し，『涅槃経』のテキストではない．

(本稿は，文部省科学研究費一般Ｃ及び三菱財団人文科学研究助成金による研究成果の一部である．)